The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	懐徳 第56号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懐徳. 1987, 56, p. 110-114
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90688
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

彙　報

（記念会）

事業報告

。「懐徳堂絵はがき」第四集　昭和六十二年三月刊行（友の会と共同刊行）。中井竹山陶印「子慶」、中井履軒玻璃印「水哉」・銅印「天楽」、中井履軒印「履道坦々幽人貞吉」・陶印「水哉」・陶印「處」、中井家旧蔵青貝印匣の四枚一組である。

。シンポジウム「懐徳堂と近世思想」　友の会と共催で昭和六十二年三月二十八日・二十九日実施。

。昭和六十二年春季講座

大阪大学文学部ならびに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に五月二十五日（月）より三十日（土）まで開催。月～金は午後六時半、土は午後二時より各日二時間の講演が行なわれた。現代的な問題性を有するテーマだけに、多くの関心を集め、大変な盛会であった。

〈生命の倫理・医の倫理〉

日本人の死生観	大阪大学	大峯　顕
キリスト教の死生観	岡山大学	金子　晴勇
仏教の死生観	大阪大学	荒牧　典俊
生命と医の哲学	奈良県立医科大学	池辺　義教
医療技術の発達と倫理の問題	京都教育大学	加茂　直樹
近代哲学と生命の問題	大阪産業大学	河井　徳治

。懐徳堂記念国際シンポジウム「徳川思想」　友の会と共催で昭和六十二年九月二十八日から三十日までの三日間開催。

。昭和六十二年秋季講座

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。九月二十七日（日）は梅田センタービル内ダイキン工業株式会社会議室で午後二時より五時まで二つの講演が行なわれ、二十八日（月）から十月一日（木）までは府立文化情報センターで午後六時から七時半まで各一つの講演が行なわれた。今回は国際シンポジウム「徳川思想」と並行して開催され、変則的な日程となった。初めて海外から講師を招き、シンポジウム参加者の出席も多く、国際色豊かな熱心な聴講風景が見られた。出席者数も初日が二百名を超えたのを始め、連日盛況であった。

〈徳川思想〉

近世町人社会と徳川思想	大阪大学	脇田　修
東アジアにおける儒教の展開	京都大学（名）	島田　虔次
近世儒教における理	国際基督教大学	源　了圓
荻生徂徠の思想	千葉大学	尾藤　正英
朝鮮思想史から見た儒学	元高麗大学	金　容沃
近世後期関西における実学	京都教育大学	末中　哲夫

役員動静

。昭和六十一年七月三十一日、石井久夫評議員退任。

。昭和六十一年八月一日、十文字孝夫大阪大学事務局長、評議

員に就任。（右二項、本誌五十五号彙報に補足）

。飯島幡司評議員、昭和六十二年一月十一日逝去。

。山田信夫評議員、昭和六十二年四月二十六日逝去。

。理事の任期更新を全員五月一日に改める旨の理事会決議に基づき、昭和六十二年四月三十日、理事堀田庄三、上野淳一、熊谷信昭、当津武彦、宮本又次の五氏、退任。五月一日付で全員重任。

会務報告

。昭和六十二年四月十七日、懐徳堂記念会理事会評議員会を住友銀行本店会議室にて開催。堀田理事長欠席のため、当津理事が議長を代行し、次の案件について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認された。

昭和六十一年度事業報告並びに決算について

役員人事について（理事の任期更新の時期を全員五月一日に改める件について）

昭和六十二年度事業計画並びに予算案について

なお、出席は熊谷信昭、当津武彦、弘世現、宮本又次の理事四名、加地伸行、片山良展、子安宣邦、信多純一、時野谷勝、日比野丈夫、宮地裕、脇田修の評議員八名、上中国夫、梅田治の幹事二名、計十四名であった。

（友の会）

事業報告

。シンポジウム開催

昭和六十二年三月二十八日・二十九日、シンポジウム「懐徳堂と近世思想」をＫＫＲ大阪（旧共済会館）及び誓願寺にて開催。参加者は日本思想の研究者を中心として約七十名。左記の研究発表があった。

三月二十八日

中井竹山の徂徠学批判をめぐって　藤本　雅彦

懐徳堂の実学と山片蟠桃　小堀　一正

異学の禁から幕末陽明学へ—大塩中斎を中心に—　荻生　茂博

近世後期朱子学の正学・異学観　頼　祺一

三月二十九日

戦後徂徠論批判—初期丸山学説の検討を中心に—　平石　直昭

九月二十八日より三十日まで、懐徳堂記念国際シンポジウム「徳川思想」を大阪府立文化情報センターにて開催。参加者は約一二〇名。左記の報告があった。

九月二十八日〈前期徳川儒教の特質〉

二つの「理」—崎門学派の〝普遍〟感覚　田尻祐一郎

伊藤仁斎—共生の倫理　黒住　真

山崎闇斎の思想的特質　高橋　文博

山崎闇斎の「神代巻」における解釈学
—典型的イデオロギー形態として　〈ルマン・オームス

九月二十九日〈徳川思想における徂徠〉

「風俗」論への視角　中村　春作

〈方法〉としての古文辞学　澤井　啓一

徂徠学の一波紋—心法論否定の問題と松宮観山　小島　康敬

徂徠学の再構成—一つの解釈の試み—　平石　直昭

九月三十日〈懐徳堂と十八世紀イデオロギー〉

懐徳堂における無鬼論の確立—中井竹山を中心に　陶　徳民

十八世紀後半儒学の再検討
—折衷学、正学派朱子学をめぐって—　辻本　雅史

昌平黌朱子学と洋学　梅澤　秀夫

懐徳堂のイデオロギー—普遍性・生産・科学　テツオ・ナジタ

。懐徳忌及び中井甃庵・竹山・履軒三先生墓碑開眼法要

昭和六十二年三月二十九日、誓願寺（大阪市南区上本町）にて開催。午後二時より本堂で山中昌弘住職によって第四回懐徳忌法要が営まれ、弘世現会長、当津武彦副会長の代表焼香のあと、参加者が焼香。続いて墓地にて中井三先生墓碑開眼法要が営まれた。その後、一階広間で、弘世会長から挨拶があり、頼祺一・広島大学教授による講演「中井家と頼家」が行なわれた。午前中、同寺でシンポジウムが開かれたため、引き続いて出席した人も多く、参加者は約六十名。

。「懐徳堂絵はがき」第四集

昭和六十二年三月、記念会と共同刊行。

。「懐徳堂・友の会だより」

第十三号は昭和六十二年一月、第十四号は同四月、第十五号は同八月発行。

。懐徳堂古典講座（古典を読む会）

昭和六十二年度として次の各コースが開講された。受講料は各コース各期毎に三千円（会員外五千円）。

前期（四月〜八月）

新阪急ビル・スカイルームにて午後六時より。

「論語と易を読む」（毎月第一月曜）　加地伸行・山口久和

「十八史略を読む」（毎月第二月曜）　平木　康平

「江戸漢詩を読む」（毎月第三月曜）　黒川　洋一

「和歌を読む—万葉集から現代短歌まで」（毎月第一金曜）　島津　忠夫

「仏典を読む—釈迦の伝説」（毎月第三金曜）　荒牧　典俊

九月特別講座「三国志を読む（その一）」

ダイキン工業（株）会議室にて午後六時より。

九月四日　後漢時代から三国時代へ　中村　圭爾

九月七日　諸葛孔明と三顧の礼　加地　伸行

九月十一日　赤壁の戦と曹操　山口　久和

九月十四日　竹林の七賢　平木　康平

九月十八日　三国時代の詩文　富永　一登

後期（十月〜昭和六十三年二月）

新阪急ビル・スカイルームにて午後六時より。

「論語と易を読む」（毎月第一月曜）加地伸行・山口　久和
「十八史略を読む」（毎月第二月曜）　平木　康平
「漢詩を読む—菅茶山『黄葉夕陽村舎詩』」
（毎月第三月曜）　黒川　洋一
「仏典を読む—釈迦の伝記」（毎月第一金曜）　荒牧　典俊
「源氏物語（桐壺）を読む」（毎月第二金曜）　伊井　春樹
「江戸の思想を読む」（毎月第三金曜）　子安　宣邦

。新収資料展
昭和六十二年五月二十五日より二十八日まで、大阪府立文化情報センター第一セミナー室で開催。ここ一両年に入手した並河寒泉文庫、逆瀬家旧蔵資料、中井蕉園屏風の内、主なもの二十九点を展示。

。資料収集
「土橋九郎右衛門宛伊藤東涯書簡」一点（昭和六十二年度）。なお、昭和六十一年度事業として、掛軸三点の補修および桐箱十一点の購入を行なった。

。見学会
第七回、昭和六十二年三月七日、白鹿記念酒造博物館（西宮市）。案内は同館事務長の南野武衛氏。参加は四十七名。
第八回、九月二十三日、南海難波駅に集合、帝塚山古墳周辺から天王寺公園に移り、慶沢園を見学。案内は矢内昭氏（清水谷高校教諭）。参加は四十九名。

役員動静

。堀内宏昭協議員、昭和六十二年三月十日逝去。
。四月一日、運営委員の合阪学、柏木隆雄、神林恒道、信多純一、塚嵩智の五氏退任に伴い、荒牧典俊、高橋正、玉井暲、辻成史、浜島敦俊の五氏、運営委員に就任。
。五月一日、協議員の大久保昌一、後藤稠の二氏退任に伴い、中西正明、矢守一彦の二氏、協議員に就任。
。七月二十一日、新開陽一協議員退任に伴い、宮本匡章氏、協議員に就任。
。十月一日、小松康監事退任に伴い、巽外夫氏、監事に就任。
。十二月一日、山本登協議員退任に伴い、坂上敏子氏、協議員に就任。

会務報告

。昭和六十二年三月十日、運営委員会を日本生命本社会議室にて開催。
。四月十七日、協議会・監事会を住友銀行本店会議室で開催。弘世会長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。
役員人事について（役員の選任について、並びに三月末日で任期満了となる役員に引き続き二年間の任期で就任をお願いする件について）
昭和六十一年度事業報告並びに決算について
昭和六十二年度事業計画並びに予算案について
新収資料（中井蕉園筆屏風二点）の報告と大阪大学への寄贈について
なお、出席は弘世現会長、当津武彦副会長、山田稔副会長の

ほか、安部川澄夫（代理）、梅本純正（代理）、熊谷信昭、鈴木敬、中西正明、宮本又次の協議員六名、川勝堅二（代理）、小松康（代理）の監事二名の計十一名。運営委員八名が陪席した。

（岸田記）

昭和六十二年十二月二十五日発行

懐徳　第五六号

編集　560 豊中市待兼山町一―一　大阪大学文学部内
発行　懐徳堂記念会
編集責任者・当津武彦

印刷　600 京都市下京区中堂寺鍵田町二
株式会社図書印刷　同朋舎